

# 関係代名詞，私の教え方

—「関係代名詞って、やっぱりわからない」と思ったままの高校生のために—

桑原 滋

## 1. はじめに

3月に卒業生を送り出し、新たな気持ちで新学年。今年は、2年生の副担任です。1年間のコミュニケーション英語Ⅱを担当するにあたって、まずアンケートを取りました。英語という科目の好き嫌い、学習時間はどれほどかなど、一般的なことを聞き、自分が理解できていない文法事項は何か尋ねました。そこで、どのクラスでも上位にくるものに関係代名詞があります。関係代名詞は、アンケートをするたびに必ず上位にランクされると言ってもよいでしょう。

英語Ⅱのテキストの中にも頻繁に登場しますし、英文を理解する上でも関係代名詞が理解できていなければ、正確な理解は難しいはず。学年全クラス統一試験で進度の制約もありますが、何とか時間をやりくりして、関係代名詞を理解させ、定着させようと思います。以下は私が何度も行った授業展開です。色々なアプローチはあるでしょうが、関係詞を教えるときの一例として、参考になれば幸いです。

なお、この時点でまだ理解できていない生徒ということは、中学時代の授業でも高校1年次の授業でも理解に至らなかったということになります。

## 2. 導入

私：関係代名詞って何？

生徒A：whoとか。

私：とか？

生徒B：thatとか。

私：「とか」はいくつあるんですか？全部言ってください。

生徒C：whom。

私：そう来たか。でも、皆、だいたいはわかっていますね。変な語は言わないですから。後で一覧表にしますが、ここでは、

関係代名詞と言ったら、who, which, thatと覚えておきましょう。(whose, whomは中学校では習っていない生徒もいるはずなので、高校1年生であってももし言えたならば、褒められるべきでしょう。)

関係代名詞といっても、無限にあるわけではありません。ですが、不得意な生徒ほど自信がなく不安です。これだけを覚えておくんだ！を明示すると、ほっとするようです。

私：では、聞きます。関係代名詞 who の意味は？

生徒D：「誰」？

私：「誰」は関係代名詞 who じゃなくて、疑問詞の who の意味じゃないか。さて、「誰」ではなくて、関係代名詞 who の意味は？

生徒E：～するところの人。

私：君はよく勉強してきたね。

実際は、「誰」が出た後は答えが返ってくることは、まずありません。関係代名詞 who の日本語の意味を教わった生徒はいないのかと思います。ここに関係代名詞のわかりにくさがあります。どう覚えればよいのかわからないのです。ちなみに、生徒E君の答えでは、whom の意味も「～するところの人」になります。

-----  
(私のプリントの抜粋です。)

☆関係づける代名詞，その誕生

昔々、英語の世界になかった関係代名詞はこうして生まれました。

1. 子供A君の文：僕、犬飼っている。それでね、

その犬速く走るんだ。

I have a dog. And the dog runs fast.

2. 青年 B 君の文：

I have a dog. And it runs fast.

3. 大人 C さんの文：

I have a dog that runs fast.

(私は犬を飼っている。そして、それは速く走る。)

この that が関係代名詞。関係づける働き(And)と代名詞(it)の両方の意味を持っています。

同じように、

4. I like the boy. And he came here yesterday.

5. I like the boy who came here yesterday.

(その少年？誰かと言えば…で who が使われました。)

6. The book is mine. And the book is on the desk.

7. The book which is on the desk is mine.

(その本？どれかと言えば…で which が使われました。)

このようにして、who と which が関係代名詞になり、次のような意味を持ちました。

Who ⇒ そして、その人は

Which ⇒ そして、それは

ここで、And it が that になり、And he が who にとって代わられたことを示します。いろんな文法教材もそのような導入をしています。ですが、この時点で who が and he であるというふうに言い切ってくれません。私は、一步踏み込みます。関係代名詞 who の意味は「そして、その人は」、which は「そして、それは」だと明示します。that はもちろんその両方の意味です。関係代名詞は難しくないぞ、これをしっかり覚えておけばよいのだと強調します。

### 3. 核

プリント No.2 へ進みます。

代名詞ですから、I, my, me のような格変化があります。もし格という語または格変化という用語で生徒が「？」の表情を浮かべていたら、しっかりと説明すべきでしょう。

ここで一覧表にして、再度関係代名詞って何？に答えましょう。「関係代名詞は、who, whose, whom; which, whose, which; that, なし, that だ

よ」とはっきりさせます。「とか」からは卒業です。

そして、核心に入ります。先ほどまでは、who は and he であったわけですが、and she や and they であることもあります。そこで、英語で関係代名詞の意味を明示します。

who ⇒ and he / she / they

whose ⇒ and his / her / their

whom ⇒ and him / her / them

which ⇒ and it / they

whose ⇒ and its / their

which ⇒ and it / them

※つなぎの言葉は and とはかぎりませんが、ここでは、and で代表させておきます。

とにかくつかみどころのなかった関係代名詞に、はっきりとした意味を与えます。皆さんも長文読解のときなどで、この which は関係代名詞で、それはつまり、the river だとか the company のことだね、などと解釈をしながら文を読み進めることはないでしょうか。

そして、[問題] へと進み、関係代名詞を含む 1 文を 2 文に分けます。よく「関係代名詞を用いて、2 文を 1 文にしなさい」という問題演習を目にしますが、上記の明示した内容からすると、2 文に分ける方が理解が容易です。分解できないようであれば、2 文を 1 文にはできません。この理解・記憶がしっかりできて初めて、2 文を 1 文にくっつけることができると思います。

[問題] 関係代名詞を使わずに、2 つの文に分けよ。

1. Do you know the girl who is dancing over there?

2. He has a son whose name is John.

3. That is the girl whom I know well.

4. The book which is on the desk is mine.

5. I have a cat whose tail is very long.

6. The movie which I saw on TV was a love story.

ここで余談ですが、問題 3 では、このような答えがよく出てきます。

That is the girl. And her I know well.

機械的にやるとこうなりますが、英語の語順の大切さを理解させるよい機会になります。

この後に、and he や and she ではなく、who であることの意義や、日本語訳に反映される訳し方の違いに言及していきます。最初からひっくり返って日本語訳で教えても、関係代名詞が訳の表面に出てくることはありませんから、関係代名詞がわからなくなるのも当然です。

まとめると、まず関係代名詞の意味するところを明示する。そして、訳は後回しにして、内容理解・機能理解を優先させることです。

ここまで来るとお気づきだと思いますが、このアプローチの仕方は、継続用法の説明を先取りしただけのことです。これは、今までの授業において、継続用法の導入がすんなりと生徒たちに理解してもらえたという経験から発しています。

#### 4. プリント No.3 発展と結論

〔問題〕プリント No.2 でやった問題の逆をやります。  
that 以外の関係代名詞を使い、2文を1文にせよ。

1. I know a woman. And she has five dogs.
2. That is the man. And I saw him yesterday.  
……などなど

このレベルの英文ですと、サラサラとつなげてくれます！あとは、関係代名詞の省略というより、接触節と関係代名詞の what を教え、基本は終了です。

基本を終えたら、使わせませす。who と which の練習が続きます。理解できたら反復・使用というわけです。

結論としては、関係代名詞とは結びつける意味と代名詞の意味を併せ持った語ですから、その2面をしっかりと理解させることに尽きると思います。

また、指導の過程において、「関係代名詞は難しいから」というような教師からの発言は慎んだ方がよいと思います。その時点で、不得意な生徒はわからなくてもよいのだと誤ってしまいますから、1度でダメなら、アプローチを変えて何度でもトライしましょう。

#### 参考文献

林野滋樹(1982). 「たのしい英文法」 東京：三友社出版。

(神奈川県立有馬高校 教諭)